

特別史跡・特別名勝 鹿苑寺（金閣寺）庭園 第21次調査概要

調査機関：京都府教育庁指導部文化財保護課 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課

地形測量：令和2年8月31日～令和2年9月3日 発掘調査：令和2年9月7日～10月中旬（予定）

調査面積：第1トレンチ 30.7㎡（a区 25.6㎡、b区 5.1㎡） 第2トレンチ 3.5㎡

1. 土壇の現況地形

・光波測距儀を使用して土壇とその周辺の地形測量を実施した。極力客観的な手法とするため、無作為に地表面の座標を細かく計測し、コンピューターで地形の起伏を計算、図化（第1図）。

・土壇を表現する過去の地形図は2種類存在。①金閣寺作図の「鹿苑寺（金閣寺）現況平面図」（第2図・昭和63年測量）②京都府文化財保護課所蔵の鹿苑寺（金閣寺）境内図（第3図・昭和25年以前）。

2. 第1トレンチ

・貼石が施工された土壇南東隅部に第1トレンチ a・b区を設定（第4図）。貼石工事に伴って土壇が削られていないか確認するために調査を実施。

（1）第1トレンチ a 区の発掘調査

・調査前は貼石が斜面を覆う状態（写真1）。貼石を除去し（写真2）、貼石の裏に堆積する柔らかい表土を除去したところ、ビニール片などを含む現代の盛土層を検出（写真3・第5図灰色の土層）。

・盛土を除去したところ、東西方向の塩ビ管を検出（第5図・写真4）。塩ビ管は中世の土壇盛土層と整地層を掘削して設置されていた。平成25年12月の施工。また、平成25年12月以前のカクランを検出（第5図 水色の範囲）。

・さらに、中世の土壇盛土層（第5図 黄色土層）及び整地層と考えられる堆積層を検出（第5図 橙色土層）。

（2）第1トレンチ b 区の発掘調査

・a区と同様に貼石を除去（写真5・写真6）したところ、柔らかい表土層を検出（写真7）。柔らかい表土を除去したところ、a区と同様の現代遺物を含む盛土層を検出（写真8）。

・盛土を除去したところ、a区の塩ビ管の延長と、中世の土壇盛土層（第6図の黄色土層）・整地層（第6図の橙色土層）を検出。塩ビ管は整地層を掘削して施工され、トレンチ西端部では土壇盛土の裾を一部削っている（第6図）。

（3）過去の写真記録との照合

・第5図・第6図の中世土壇盛土（黄色土層）は西から東に向かって緩やかに傾斜が下がる。この地形の特徴は平成25年8月撮影（写真9）当時の斜面地形と同じ。

・昭和25年以前の図面（第4図青線）には土壇がえぐられている表現があるため、近代以前に地形改変が施されていた可能性がある。

・平成25年12月の段階で土壇側（北側）の掘削工事は確認されない（写真10）。埋設管の設置後に、

盛土工事を実施（写真 11・写真 12）。

- ・写真の赤い楕円形で囲んだ垂直の塩ビ管の立ち上がりの位置が第 5 図の塩ビ管破れ目に該当することから、第 1 トレンチと同一地点と特定可能）。施工期間は平成 25 年 12 月から平成 26 年 1 月と推測。
- ・平成 27 年 1 月には貼石は未施工だが（写真 13）、同年中には貼石が施工されたとみられる。

（4）所見

- ・貼石は平成 25 年 12 月～平成 26 年 1 月の盛土の上に施工されていることが明らかで、さらに下層にある中世の土壇盛土には影響を及ぼしていない。
- ・発掘調査でみつかった平成 25 年 12 月の埋設管工事によって、中世の土壇盛土が削られている。

3. 第 2 トレンチ

- ・土壇上の仮設通路脇に第 2 トレンチを設定（第 7 図）。平成 28 年度の発掘調査で検出された土壇盛土層及び上面の被熱面が保存されているかを確認するために調査を実施。

（1）第 2 トレンチの発掘調査

- ・調査前は上面が苔シートで覆われ、側面は堰板が設置された状態（写真 14）。表面の苔シート、堰板を除去したところ、盛土と真砂土で遺構面が覆われ、保護された状況を確認（写真 15）。
- ・真砂土の直下で中世の被熱面、土壇の盛土層を検出（第 8 図）。

（2）過去の写真記録との照合

- ・平成 28 年度の発掘調査が終了した段階の写真（写真 16・被熱層が真砂土で被覆された状態）と現在の状態には、違いが認められない。

（3）所見

- ・平成 28 年度の発掘調査が終了した段階の状態を保ち、遺構は保護されていると考えられる。

4. 土壇地形について

（1）令和 2 年、昭和 63 年、昭和 25 年以前の 3 図面（第 9 図～第 12 図）の比較

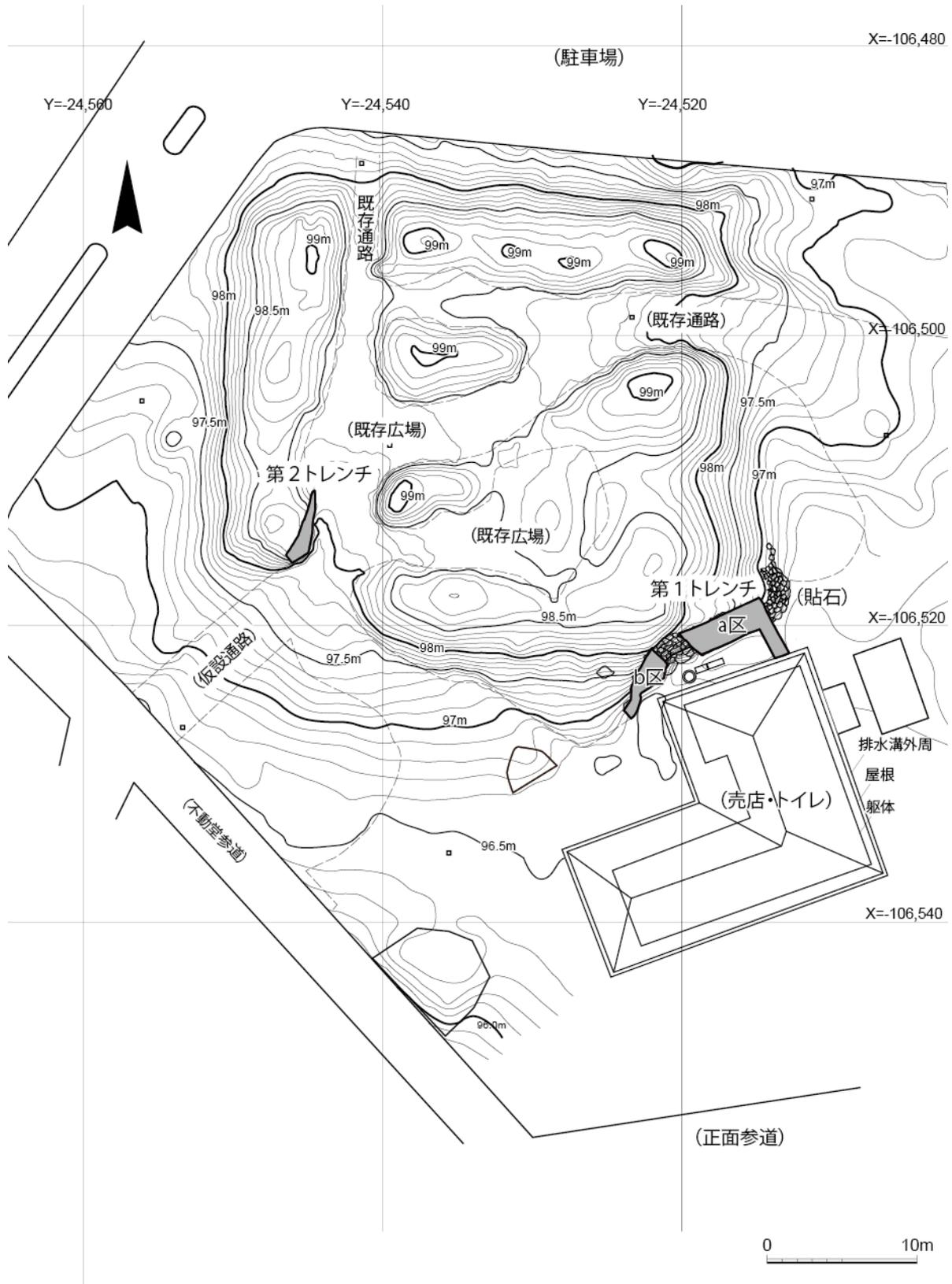
- ・昭和 63 年図面（第 9 図）と、令和 2 年図面を合成し比較する（第 10 図）と、昭和 63 年図面は地形起伏の情報量が少なく、土壇を大きく表現していることがわかる。
- ・昭和 25 年以前図面（第 11 図）と令和 2 年図面を比較する（第 12 図）と、地形起伏の細かい表現が共通していることがわかる。

（2）発掘調査成果との比較

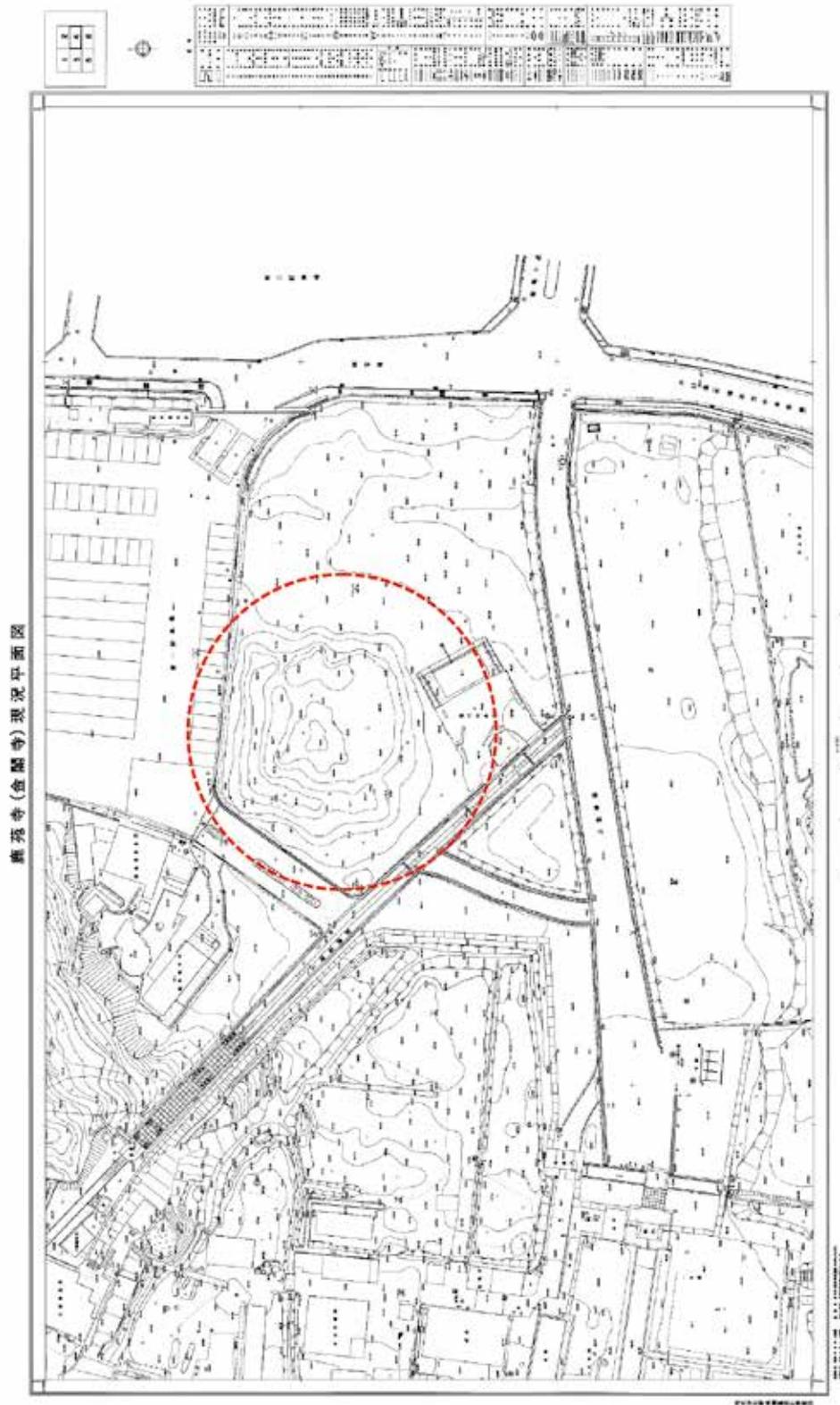
- ・第 1 トレンチの発掘調査結果と、周辺の写真記録から、昭和 25 年以前図面の信頼性は高いものと評価できる。
- ・昭和 63 年図面の土壇形状は、第 1 トレンチの発掘調査成果と整合しない。

（3）所見

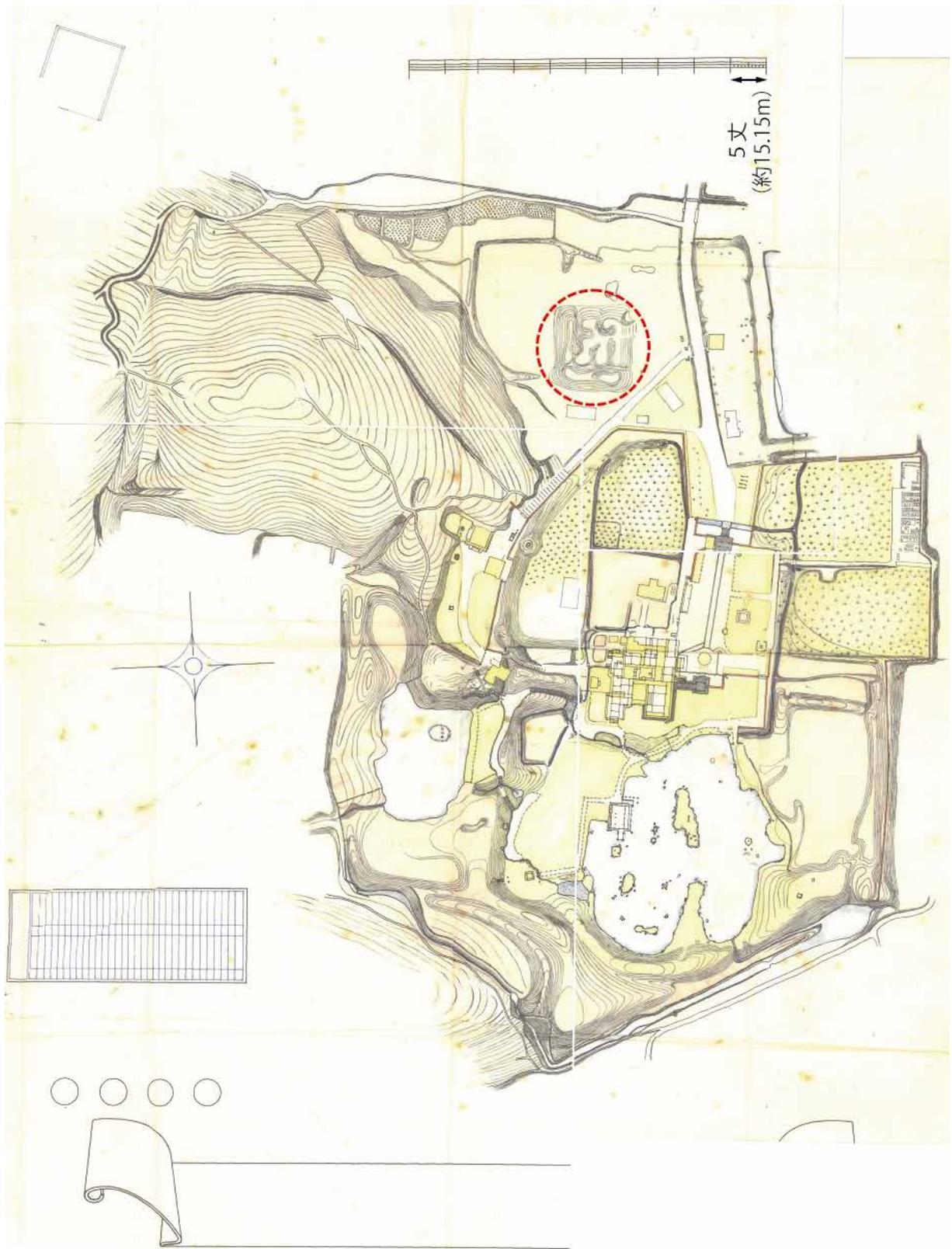
- ・昭和 63 年図面の土壇範囲と現地形の比較から土壇削平の可能性が指摘されているが、昭和 63 年図面の地形表現精度の信頼性は低く、発掘調査からも削平の事実は無いと判断される。



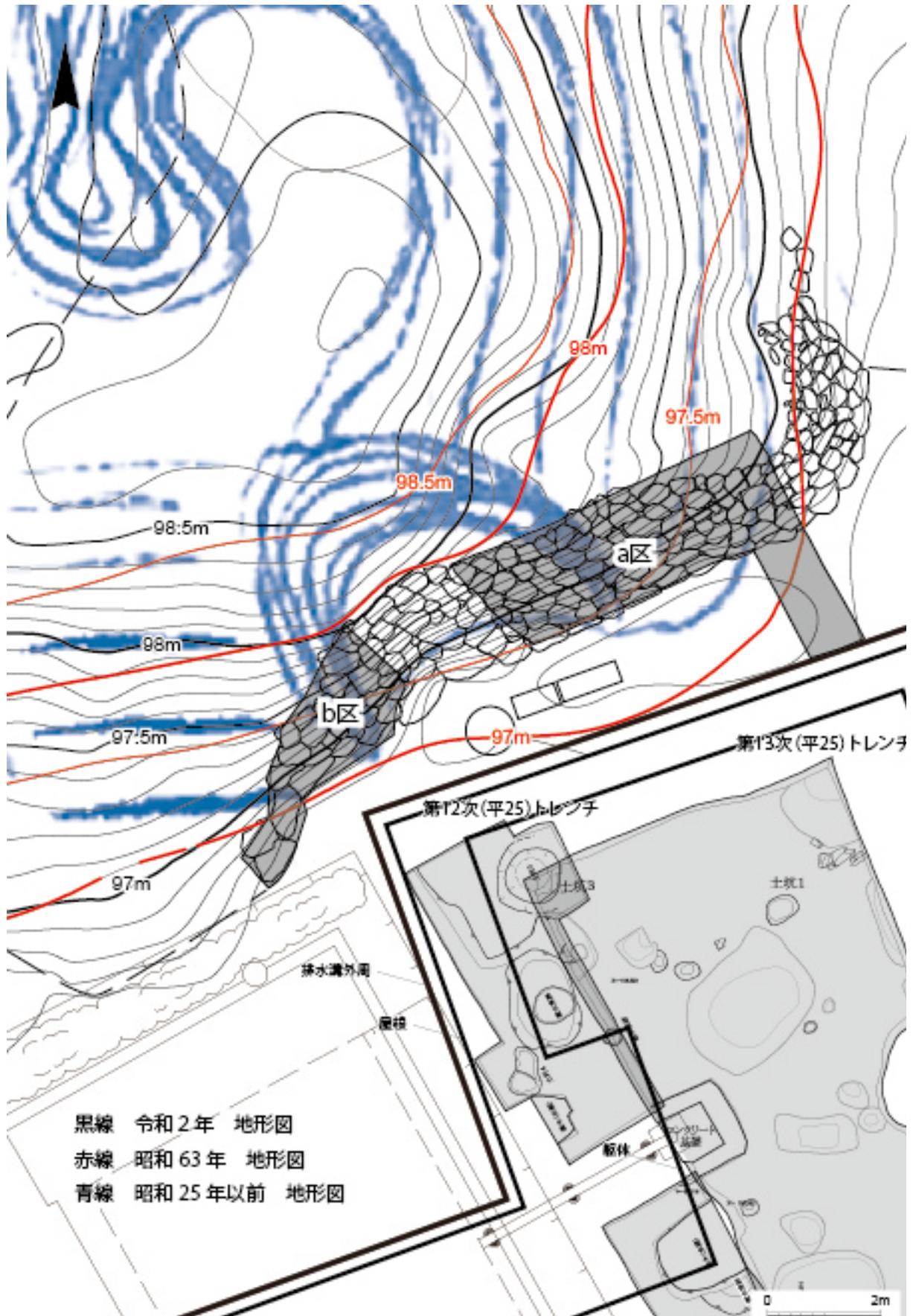
第1図 令和2年9月 土壇周辺地形測量図



第2図 昭和63年 地形測量図

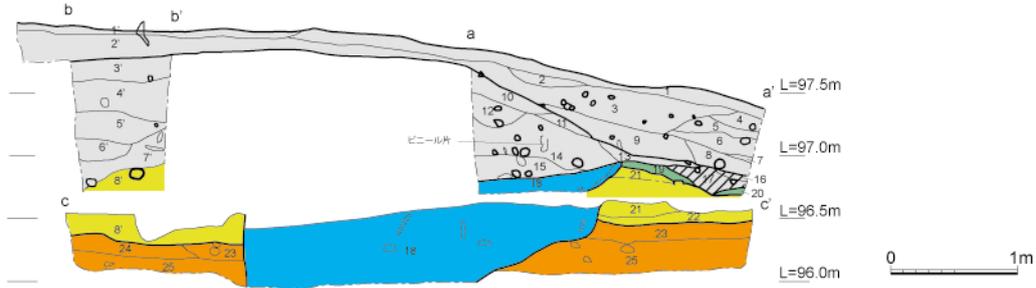


第3図 昭和25年以前 地形測量図（尺貫法で縮尺表記、大正14年の国指定段階に遡る可能性あり。）

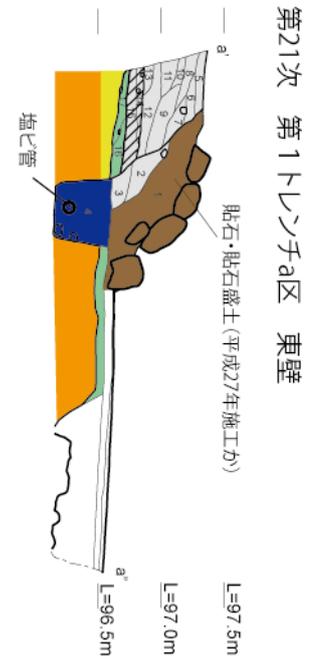
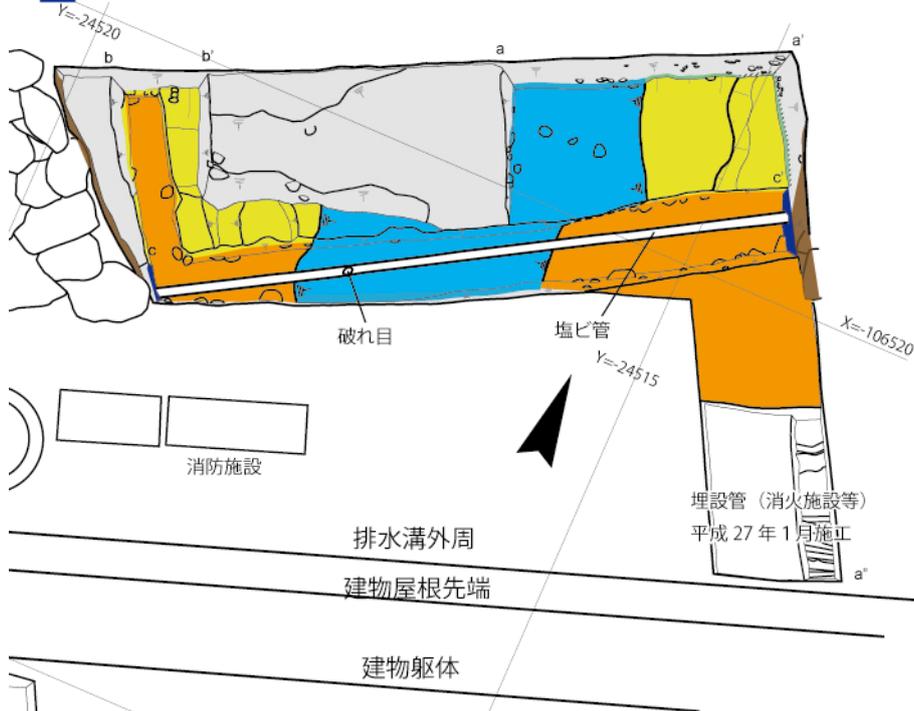


第4図 令和2年度(第21次調査)第1トレンチ位置図

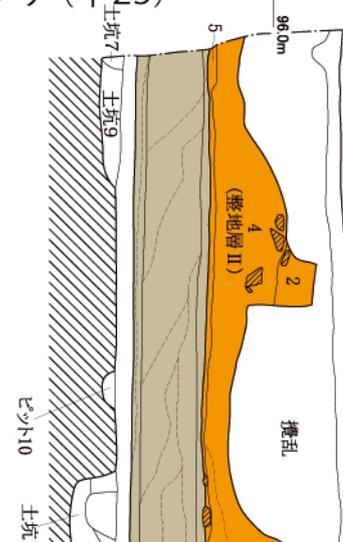
第21次 第1トレンチa区 北壁



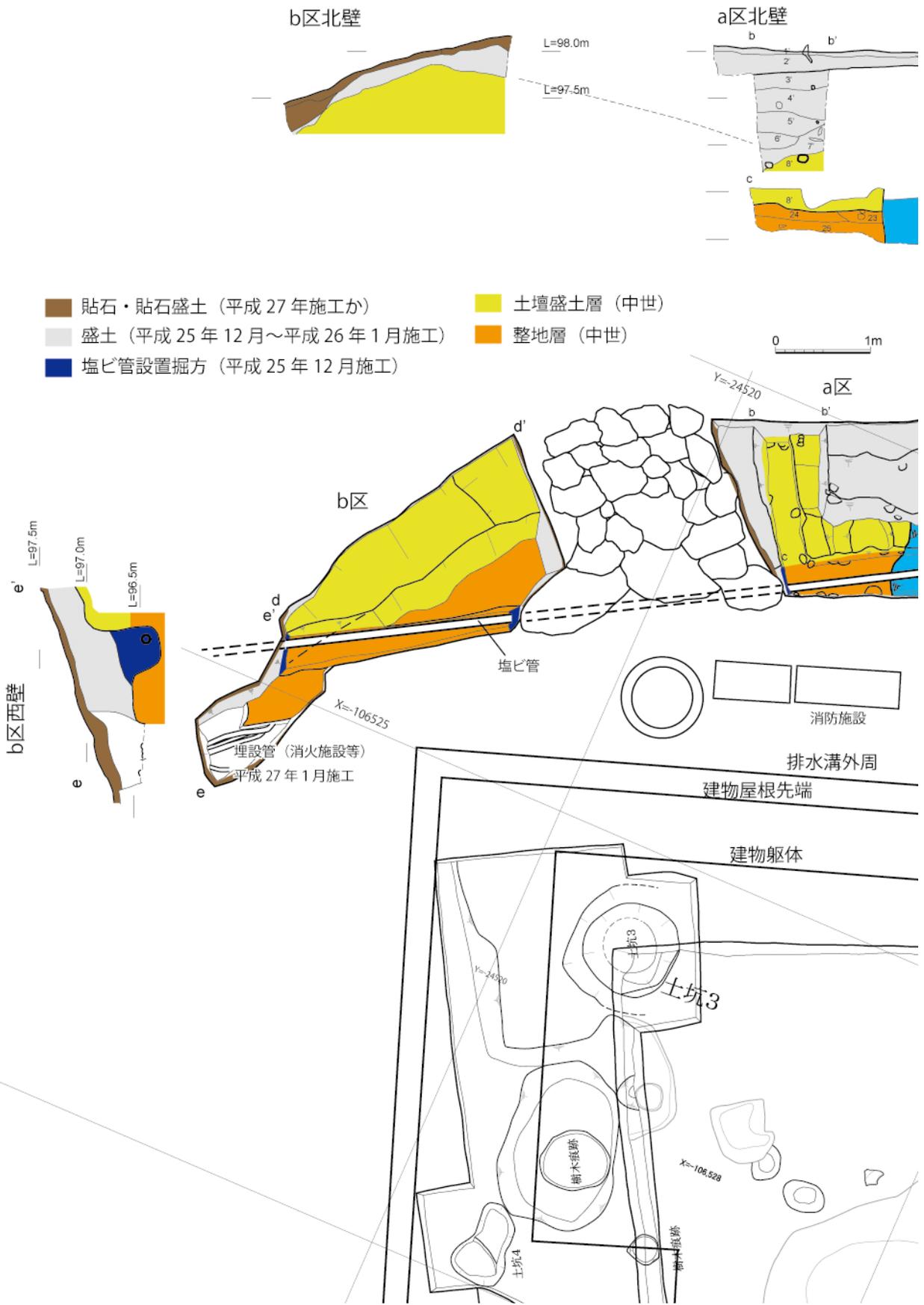
- 貼石・貼石盛土 (平成27年施工か)
- カクラン (平成25年12月以前)
- 盛土 (平成25年12月～平成26年1月施工)
- 近現代?の堆積層 (平成25年12月以前)
- 砂利層 (平成25年12月～平成26年1月施工)
- 土壇盛土層 (中世)
- 塩ビ管設置掘方 (平成25年12月施工)
- 整地層 (中世)



第13次トレンチ (平25)



第5図 第1トレンチa区 平面図・土層断面図



第 6 図 第 1 トレンチ b 区 平面図・土層断面図